

平成 30 年度入学者選抜に関する要項の補足説明について

大学入試センター試験成績の利用方法についての留意事項等に説明が不足していましたので、以下のとおり追記して補足します。

○ 一般入試 (p.16) 「留意事項」6(2) に追記

また、文系後期一括入試の『「地理歴史」「公民」』に関しては、大学入試センター試験の『「地理歴史」「公民」』を2科目受験している場合、第1解答科目の成績を優先して利用します。よって、第2解答科目の成績を利用するのは、指定した教科・科目の範囲（「外国語」を除く）で高得点の上位2科目が『「地理歴史」「公民」』の第1解答科目及び第2解答科目である場合のみです。

○ 推薦入試Ⅱ (p.28) 「留意事項」1(2) に追記

また、人間社会学域地域創造学類（環境共生コース）の『「地理歴史」「公民」』に関しては、大学入試センター試験の『「地理歴史」「公民」』を2科目受験している場合、第1解答科目の成績を優先して利用します。よって、第2解答科目の成績を利用するのは、指定した教科・科目の範囲で高得点の上位2科目が『「地理歴史」「公民」』の第1解答科目及び第2解答科目である場合のみです。

○ 文系後期一括入試の表 (p.25) の下の「注意事項」に追記

大学入試センター試験の『「地理歴史」「公民」』を2科目受験している場合、第1解答科目の成績を優先して利用します。よって、第2解答科目の成績を利用するのは、指定した教科・科目の範囲（「外国語」を除く）で高得点の上位2科目が『「地理歴史」「公民」』の第1解答科目及び第2解答科目である場合のみです。

○ 推薦入試Ⅱ 地域創造学類（環境共生コース）の表 (p.39) の下の「注意事項」に追記

大学入試センター試験の『「地理歴史」「公民」』を2科目受験している場合、第1解答科目の成績を優先して利用します。よって、第2解答科目の成績を利用するのは、指定した教科・科目の範囲で高得点の上位2科目が『「地理歴史」「公民」』の第1解答科目及び第2解答科目である場合のみです。

また、文系後期一括入試の『「地理歴史」「公民」』に関しては、大学入試センター試験の『「地理歴史」「公民」』を2科目受験している場合、第1解答科目の成績を優先して利用します。よって、第2解答科目の成績を利用するのは、指定した教科・科目の範囲（「外国語」を除く）で高得点の上位2科目が『「地理歴史」「公民」』の第1解答科目及び第2解答科目である場合のみです。

3 入学者選抜の実施教科・科目等

【留意事項】

1. 教科、科目名は、次のとおりカッコ内の語を略記しています。

国 語……国(国語)、国総(国語総合)

地理歴史……地歴(地理歴史)、世A(世界史A)、日A(日本史A)、世B(世界史B)、日B(日本史B)

公 民……現社(現代社会)、倫(倫理)、政経(政治・経済)、倫・政経(倫理、政治・経済)

数 学……数(数学)、数Ⅰ(数学Ⅰ)、数Ⅱ(数学Ⅱ)、数Ⅲ(数学Ⅲ)、数A(数学A)、数B(数学B)、簿(簿記・会計)、情報(情報関係基礎)

理 科……理(理科)、物基(物理基礎)、化基(化学基礎)、生基(生物基礎)、地基(地学基礎)

外国語……外(外国語)、英(英語)、コ英Ⅱ(コミュニケーション英語Ⅱ)、コ英Ⅲ(コミュニケーション英語Ⅲ)、英表Ⅰ(英語表現Ⅰ)、英表Ⅱ(英語表現Ⅱ)、独(ドイツ語)、仏(フランス語)、中(中国語)、韓(韓国語)

2. 大学入試センター試験の「数学」のうち、「簿記・会計」、「情報関係基礎」を選択できる者は、高等学校(中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。)においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の修了(見込み)者に限ります。

3. 大学入試センター試験の「理科」のうち、「基礎を付した科目」(「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」)から2科目を選択するように指定している学類の中で、**人文学類、法学類、経済学類、国際学類**においては、「基礎を付していない科目」(「物理」、「化学」、「生物」、「地学」)から2科目を選択した場合、**基礎を付した2科目を選択したものと見なし、合計得点(200点満点)を100点満点に換算して利用します。**

4. 個別学力検査の「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」、「数学B」、「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」、「生物基礎・生物」、「地学基礎・地学」の出題範囲については、次のとおりです。

「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」……それぞれの全範囲を出題範囲とします。

「数学B」……「数列」、「ベクトル」を出題範囲とします。

「物理基礎・物理」……「物理基礎」及び「物理」の全範囲から出題します。

「化学基礎・化学」……「化学基礎」及び「化学」の全範囲から出題します。

「生物基礎・生物」……「生物基礎」及び「生物」の全範囲から出題します。

「地学基礎・地学」……「地学基礎」及び「地学」の全範囲から出題します。

5. 個別学力検査の「独(ドイツ語)」、「仏(フランス語)」、「中(中国語)」は、リスニングテストを課します。

6. 大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等について

(1) 配点に※印を付してある教科は、選択教科を表します。

(2) 大学入試センター試験で、指定した教科・科目数を超えて受験している場合は、指定した教科・科目数の範囲で高得点の順に教科・科目の成績を利用します。

ただし、『「地理歴史」「公民」』の受験科目を1科目と指定した学類において2科目受験している場合及び「理科」の受験科目を1科目と指定した学類において2科目受験している場合は、それぞれ受験した科目のうち第1解答科目の成績を利用します。(第1解答科目が指定した科目以外の場合は失格となります。)

(大学入試センター試験の『「地理歴史」「公民」』及び「理科②」の試験時間において2科目を選択する場合、解答順に前半に受験した科目を第1解答科目、後半に受験した科目を第2解答科目とします。)

(3) 大学入試センター試験で「数学」2科目又は「理科」2科目を課す学域学類等については、2科目の合計を表記しています。各科目の配点は各々2分の1とします。

(4) 医薬保健学域医学類及び薬学類・創薬科学類の個別学力検査の「理科」2科目については、2科目の合計を表記しています。各科目の配点は各々2分の1とします。

(5) 大学入試センター試験の「英語」にはリスニングテストが含まれており、成績は、筆記試験(200点満点)とリスニングテスト(50点満点)の合計得点を200点満点となるように圧縮し、他の外国語と比較できるようにして利用します。

なお、大学入試センター試験の「英語」のリスニングテストが免除となる重度難聴者については、「英語」の筆記試験の成績(200点満点)を圧縮せずに利用します。

また、入学者選抜の配点にあたっては、学域学類等に示されている大学入試センター試験の「外国語」の配点に換算します。

学域・学類等名及び入学定員等	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等							その他の選抜方法等						
		教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階選抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科		外国語	総合問題	面接・口述試験	配点合計		
文系後期一括 62人	後期 3月12日	国 地歴 公民 数理 外	国語 世B, 日B, 地理Bから1 現社, 倫, 政経, 倫・政経から1 数I・数Aと数II・数B 物基, 化基, 生基, 地基から2 又は 物理, 化学, 生物, 地学から1 英 ^(注2) 〔3教科3科目〕, 〔3教科4科目〕 又は〔3教科5科目〕	その他 総合問題(英文を含む場合があります)	—	センター試験	※200(100×2)					200					400	追加合格 欠員補充	
							個別学力検査等								300				300
							計	200								200	300		
理系後期一括 82人	後期 3月12日	数 外	数I・数Aと数II・数B 英 ^(注3) 〔2教科3科目〕	理 物基・物理, 化基・化学から1	—	センター試験				100		100			200	追加合格 欠員補充			
							個別学力検査等							300				300	
							計				100	300	100				500		

【文系後期一括】 注意事項

- (注1) 大学入試センター試験において, {「国語」, 「地理歴史」, 「公民」, 「数学」, 「理科」} から3科目となるのは, 「数学」2科目と他教科1科目又は「理科」の「基礎を付した科目」2科目と他教科1科目の場合のみです。また, {「国語」, 「地理歴史」, 「公民」, 「数学」, 「理科」} から4科目となるのは, 「数学」2科目と「理科」の「基礎を付した科目」2科目の場合のみです。
- 注2) 大学入試センター試験の「英語」については, 外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は, 17ページ「3 入学者選抜の実施教科・科目等」の留意事項(7. 大学入試センター試験の「英語」での外部試験の利用について)を参照してください。外部試験のスコアを提出する場合であっても, 大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

【理系後期一括】 注意事項

- (注3) 大学入試センター試験の「英語」については, 外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は, 17ページ「3 入学者選抜の実施教科・科目等」の留意事項(7. 大学入試センター試験の「英語」での外部試験の利用について)を参照してください。外部試験のスコアを提出する場合であっても, 大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

大学入試センター試験の『「地理歴史」「公民」』を2科目受験している場合, 第1解答科目の成績を優先して利用します。よって, 第2解答科目の成績を利用するのは, 指定した教科・科目の範囲(「外国語」を除く)で高得点の上位2科目が『「地理歴史」「公民」』の第1解答科目及び第2解答科目である場合のみです。

2 推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す）

(1) 推薦要件，入学者選抜方法等

また、人間社会学域地域創造学類（環境共生コース）の『「地理歴史」「公民」』に関しては、大学入試センター試験の『「地理歴史」「公民」』を2科目受験している場合、第1解答科目の成績を利用します。よって、第2解答科目の成績を利用するのは、指定した教科・科目の範囲で高得点の上位2科目が『「地理歴史」「公民」』の第1解答科目及び第2解答科目である場合のみです。

【留意事項】

1. 大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等について

(1) 配点に※印を付してある教科は、選択教科を表します。

(2) 大学入試センター試験で、指定した教科・科目数を超えて受験している場合は、指定した教科・科目数の範囲で高得点の順に教科・科目の成績を利用します。

ただし、『「地理歴史」「公民」』の受験科目を1科目と指定した学類において2科目受験している場合及び「理科」の受験科目を1科目と指定した学類において2科目受験している場合は、それぞれ受験した科目のうち第1解答科目の成績を利用します。（第1解答科目が指定した科目以外の場合は失格となります。）

（大学入試センター試験の『「地理歴史」「公民」』及び「理科②」の試験時間において2科目を選択する場合、解答順に前半に受験した科目を第1解答科目、後半に受験した科目を第2解答科目とします。）

(3) 大学入試センター試験で「数学」2科目又は「理科」2科目を課す学域学類等については、2科目の合計を表記しています。各科目の配点は各々2分の1とします。

(4) 大学入試センター試験の「英語」にはリスニングテストが含まれており、成績は、筆記試験（200点満点）とリスニングテスト（50点満点）の合計得点を200点満点となるように圧縮し、他の外国語と比較できるようにして利用します。

なお、大学入試センター試験の「英語」のリスニングテストが免除となる重度難聴者については、「英語」の筆記試験の成績（200点満点）を圧縮せずに利用します。

また、入学者選抜の配点にあたっては、学域学類等に示されている大学入試センター試験の「外国語」の配点に換算します。

(5) 大学入試センター試験の「英語」について、法学類、学校教育学類、地域創造学類、保健学類の推薦入試Ⅱにおいては、外部試験のスコアの提出を認め、TOEFL-iBT：45～68、IELTS（アカデミック・モジュール）バンド：3.0～6.0、GTEC-CBT：820～1100、TEAP：246～304の場合は、大学入試センター試験の「英語」の得点の80%から100%の得点を、外部試験のスコアに応じて与えます。TOEFL-iBT：68以上、IELTS（アカデミック・モジュール）バンド：6.0以上、GTEC-CBT：1100以上、TEAP：304以上の場合は、大学入試センター試験の「英語」の100%の得点を与えます。ただし、大学入試センター試験の「英語」の得点と比較して高得点の方を利用します。外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

また、医学類の推薦入試Ⅱにおいては、外部試験（TOEFL-iBT、IELTS（アカデミック・モジュール）、GTEC-CBT、TEAP）のスコアの提出を認め、CEFRのC1相当以上のスコアを有する場合に、大学入試センター試験の「英語」の得点ではなく、総合評価に反映させます（C1相当以上のスコアとは、TOEFL-iBT：95-120、IELTS：7.0以上、GTEC-CBT：1400、TEAP：400に相当します）。選抜は、大学入試センター試験の成績、口頭試問による面接の結果及び提出書類等（調査書、推薦書、志願理由書、外部試験のスコア）を総合して行います。ただし、外部試験の受験は出願資格ではありません。

なお、外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

2. 大学入試センター試験の「数学」のうち「簿記・会計」、「情報関係基礎」を選択できる者は、高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。）においてこれらの科目を履修した者に限ります。

3. 大学入試センター試験で、志望する学域学類等が課すすべての教科・科目等を受験しなければ、個別学力検査等を受験することはできません。

また、個別学力検査等で、志望する学域学類等が課すすべての教科・科目等を受験しなければ失格となります。

4. 各学域学類等の内容が表示してある表の下にも「注意事項」が書いてありますので、必ず参照してください。

実施学域・学類等名	人間社会学域 地域創造学類 環境共生コース																
募集人員	5人																
推薦要件										選抜方法							
以下の1から4のすべての条件を満たす者で、平成30年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者 (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成29年4月から平成30年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成29年4月から平成30年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 人物及び学業成績が優秀で、環境共生コースでの勉学に強い意欲を持ち、出身学校長が責任を持って推薦できる者 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき1名とします。										選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。							
大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等												
教科	科目名等		教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計	
国 地歴 公民 数 理 外	国語 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理Bから1 現社, 倫, 政経, 倫・政経 から1 数I・数A, 数II・数B, 簿, 情報 から1 物基, 化基, 生基, 地基から2 又は 物理, 化学, 生物, 地学から1 英(注2), 独, 仏, 中, 韓から1 [2教科2科目]又は[2教科3科目]		その他	面接	センター試験	※200(100×2)										200	
					個別学力検査等									400		400	
					計	200										400	600

【地域創造学類(推薦入試Ⅱ) 環境共生コース 注意事項

(注1) 大学入試センター試験において、{「国語」, 「地理歴史」, 「公民」, 「数学」, 「理科」, 「外国語」} から3科目となるのは、「理科」の「基礎を付した科目」2科目と他教科の1科目の場合のみです。

(注2) 大学入試センター試験の「英語」については、外部試験のスコアの提出を認めます。詳細は、28ページの【留意事項】を参照してください。外部試験のスコアを提出する場合であっても、大学入試センター試験における「英語」を受験する必要があります。

大学入試センター試験の『「地理歴史」「公民」』を2科目受験している場合、第1解答科目の成績を優先して利用します。よって、第2解答科目の成績を利用するのは、指定した教科・科目の範囲で高得点の上位2科目が『「地理歴史」「公民」』の第1解答科目及び第2解答科目である場合のみです。